

人生の 仕舞い方



よりこ
武藤頼胡の

「終活」は奥が深いもので
す。やはり「地域性」って大
事ですね。慣習や風潮はそこ
の地域にしかなく、言葉にで
きませんが、大切にしてきた
意味があります。

文化が形骸化していくこと
もありませんが、必ず意味があ
ります。このような世の中だ
からこそ、そこに重きを置
き、先人がどのような思想で

終活の必要性

「多死社会」の今だから

何を守ってきたかも終活には
欠かせない要素です。

先人の知恵を大切にしま
つ、今の社会背景からどうす
るのが良いのか、なぜ終活が
必要なのか——。新年度にち
なんで、改めてお話ししま
す。

1年間に日本で亡くなる方
は134万人います。悲しい



言い方ですが、多死社会とい
う言葉がわが国には合ってい
ます。私が育った地域では、

霊きゅう車を見掛けると親指
を隠したものです。霊きゅう
車は、今は姿を変え、私たち
には分かりにくくなっていま
す。

それに対して、生まれてく
る赤ちゃんは年間94万人で
す。当たり前ですが、人口が
減るわけです。

私は既に47歳なので子ども
を産むのは難しいですが、で
きれば若い方にはたくさん産
んでほしいです。そのために
は、まず私たち大人が生きが
いを持って、生きている姿

(背中でしょうか)を見せる
必要があります。

私たちが生きがいのある人
生を過ごし、若い人たちに見
せる必要があるのです。私は
そのような在り方でいられる
ように、いつも頑張っていま
す。

終活は死の準備のイメージ
ですが、今をよりよく生きる
ための手段だと思います。そ
んな観点が伝わるよう、そし
てやってみようと思われよう
らにつづっていききたいと思
います。

(終活カウンセラー協会代
表理事)

(次回は5月8日付)